



経営革新

卓越した教育研究を基盤として社会とともに成長する好循環の確立のため、大学経営を革新します

2030年の大学の姿

教育、研究、社会との共創の好循環をより高い次元で実現するために、大学ガバナンスの開放性・透明性を高め、日本および世界の多様なステークホルダーと本学構成員との共創を促す環境を整備するとともに、持続的発展を見据えた包括的ロジスティクスと戦略的マネジメントを確立します。

重点戦略 ⑮

社会に信頼され、力強く社会価値を生み出す機動的経営体制の確立

主要施策

46. 大学のミッションを遂行するための多様かつ柔軟な人事システム改革の実行

教員採用に際しては、若手・女性・外国人の採用促進の必要性など、全学的な課題に迅速に対応するため「人事戦略会議」を設置し、外部学識経験者等の意見を踏まえて、全学的な教員の人事管理に関する方針・戦略を策定します。事務・技術系職員等の採用に際しては、職種ごとの「求める人材像」に即した柔軟な選考を拡大し、多様な採用方法を通して優秀な人材を確保します。

また、全ての教職員について、適切な人事評価に基づく人事管理の徹底を推進します。特に教員については、研究分野の特性に配慮した合理性のある評価基準等を整備し、人事給与改革を実行します。さらに、優秀な若手を惹きつけるための取組として、東北大学版テニュアトラック制度を充実させるとともに、「若手版ディスティングイッシュトプロフェッサー制度(仮称)」等の新たな制度を創設します。

大学マネジメントの高度化に伴いその重要性が増しているURA (University Research Administrator) をはじめとする新たな専門人材については、本学独自の先駆的な人事制度等を確立します。

47. 大学経営力強化のためのガバナンス改革

アカデミックガバナンスの推進を加速するため、東北大学版プロボストの体制強化、総長・プロボスト室を司令塔とする大学システム改革、大学ガバナンスコードの策定などを進めます。また、全学一体運営を一層進めるために、総長・部局長の選考と任期の在り方の再検討や、事務機構の改革など、大学経営力強化のための各種施策を検討し、包括的な改革を実行します。

48. 人的リソースの最適配置による事務組織等の再構築および分析・支援ツールを活用した大胆な業務改革の実行

事務組織の統合、共通事務部の設置、業務内容および規則の見直しなどを通して人的リソースの最適配置を行います。また、AI等を活用した経営および業務支援ツールを導入して、抜本的な業務の効率化を実現するとともに、手続きの簡素化を可能にするWeb申請システムや公正な競争を担保するWeb調達システムの整備など、ICTを活用した事務手続きの効率化・簡素化を推進します。さらに、構成員から大学運営全般に関する提言を受け付ける「改革目安箱(仮称)」を設置し、大胆な業務改革に活かします。

49. 多様な働き方の実現と適正な労働時間管理の実施

テレワーク等の新たな勤務形態の導入や、新たな福利厚生制度の創出を検討します。教員について、裁量労働制の適正な運用を行うとともに、勤務形態の最適化を検討します。事務系職員等について、業務と組織の見直しを不断に行い、時間外労働の削減に向けた取組を継続的に実施します。

50. コンプライアンスを重視した経営の実践

創造と変革を先導する大学にふさわしい、コンプライアンスの強化を推進するため、研究倫理遵守、研究費不正使用防止、ハラスメント防止、外国企業との共同研究における技術流出防止(営業秘密管理)等の取組を抜本的に加速させます。また、e-learningを活用したコンプライアンス教育の一元化と全構成員受講を徹底します。

51. 情報環境の最適化と情報セキュリティ強化

業務システムのクラウド化の促進などにより、全学における情報基盤の管理・運営を集約し、包括的な業務効率化を進めるとともに、研究教育の利便性を確保しつつ情報セキュリティを抜本的に強化します。そのために、ネットワーク監視の自動化などによってインシデントを未然に防ぐとともに、定期的に情報セキュリティ教育を実施し、全構成員が高い情報リテラシーを保つ環境を整備します。また、ソフトウェア・アセットマネジメントの徹底により、ソフトウェアへの投資最適化および不正ライセンス防止対策を強化します。

重点戦略 ⑯

強固な財務基盤の確立

主要施策

52. 外部資金獲得強化を大学全体のパフォーマンス向上に繋げる
新たな学内配分システム等の確立

大学経営における好循環を形成するため、社会情勢等を踏まえた長期財政計画の策定・見える化を行います。その上で、外部資金獲得強化を大学全体のパフォーマンス向上に繋げるため、成長が見込まれるプロジェクトへの重点支援制度および大型プロジェクト研究への長期的支援制度を創設するとともに、獲得した外部資金に応じたインセンティブ付与制度を拡充します。また、基礎研究領域等を含め大学全体に再配分する新たな学内配分システムを構築します。さらに、新たな自己収入確保策や、部局提案型の取組に対する教職員へのインセンティブ付与制度などを確立します。

53. アセットマネジメントセンター等を活用した資産の有効活用の強化

資産運用等を促進するための大胆な学内制度改革を行うとともに、企業とのコンサルティング契約等を活用し、本学の資産価値の最大化を図ります。特に、新設のアセットマネジメントセンターを中心として、国立大学最大規模の供用可能スペース、利便性の高い広大なキャンパスをはじめとする不動産、戦略的に運用可能な資金、供用可能な先端的研究設備等を積極的に活用して、自己収入の獲得強化を推進します。

54. 戦略的ファンドレイジングの展開と支援者とのネットワーク強化

卓越した教育研究を基盤とする社会価値の創出により、社会からの評価と支援を得るという好循環を実現するため、多様なステークホルダーへのブランディングを核とした戦略的ファンドレイジングを展開します。さらに、好循環の発展を通して、より大きな社会価値を継続的に生み出すことを目的として、大学支援者との強固なネットワークを確立します。特に、全学的な校友会である「萩友会」については、その組織の強化を図るとともに、ホームカミングデー等の場を活用して、寄附文化の醸成や企業とのマッチング等を拡充します。

55. 戦略的な産学共創による民間共同研究収入の拡大

半導体工学、ライフサイエンス、材料科学などの複数分野において、B-U-B (Business-University-Business) 連携による自立型オープンイノベーション拠点を形成し、大型共同研究を拡大します。また、産学のトップマネジメントによる「ビジョン共創型パートナーシップ」を通して、「組織」対「組織」による産学連携事業を推進します。これらを中心とした多様な産学共創の展開によって民間共同研究収入の飛躍的拡大を図ります。

重点戦略 ⑰

戦略的な国際協働の深化

主要施策

56. 世界から尊敬される三十傑大学としての国際協働の戦略的推進

世界から尊敬される三十傑大学をめざして東北大学の国際ブランド力を強化し、世界の大学、学術団体、産業界および市民等との戦略的パートナーシップに基づく国際協働を推進します。学内の多様な構成員による幅広い国際連携活動を基盤としつつ、「選択と集中」によって実効性を高めた国際戦略を策定・実行し、国際協働を深化させます。

57. セクションの壁を越えて全学一体となった包括的国際化の推進

これまで個別的に進められてきた、教育、研究、産学共創、社会連携などに関する国際的活動を全学的に連携させ、包括的国際化 (Comprehensive Internationalization) を推進します。出島的な国際化からの脱却を目指す取組みを加速するために各構成員の資質向上と意識改革を図るとともに、誰もが国際的活動に参画しやすい体制構築と環境整備を行うことによって、世界から尊敬される三十傑大学を目指す本学にふさわしい組織文化を醸成します。

重点戦略 ⑱

多様な価値観が交流する社会に開かれたキャンパスの整備

主要施策

58. 国内最大規模のサイエンスパーク等を活用した社会共創の加速

青葉山新キャンパスに整備される日本最大規模のアンダー・ワン・ルーフ型産学連携拠点および次世代放射光施設を呼び水としてサイエンスパークへの企業誘致を推進し、国内最大級のリサーチコンプレックスを形成します。また、星陵キャンパスにおいても、アンダー・ワン・ルーフ型体制を整備することにより、製薬企業等の誘致を推進し、ライフサイエンス系の産学連携拠点を構築する等、本学と社会との共創によるイノベーション創出をさらに加速させます。

59. ダイバーシティ&インクルージョンを尊重した先進的キャンパス環境の実現

誰もが安心・安全に活動できるダイバーシティ&インクルージョンを尊重したキャンパス環境を実現します。ユニバーシティ・ハウスや外国人研究者宿泊施設など、国際化に配慮したキャンパス整備を進めるとともに、車椅子用エレベーターや多目的トイレなどのバリアフリー化、誰にとっても分かりやすいキャンパスサインの強化などに取り組みます。また、東日本大震災の経験を踏まえ、災害等緊急時の事業継続性、経済性、環境調和性を考慮したキャンパス整備を推進します。

60. 多様なステークホルダーにとって魅力あるアカデミックパークとしてのキャンパスの実現

キャンパス周辺地域との一体的なまちづくりや、文化・スポーツエリアおよび散策ルートの整備を行うとともに、運動場、体育館、プールなどの課外活動施設、附属図書館、総合学術博物館、史料館、植物園などの文化施設、魯迅の階段教室に代表される歴史的建造物、大規模会議が可能な講義施設などの一般開放を進めます。さらに、東北大学オープンカレッジなど多様な社会連携事業の拡充を通して、市民にとって身近で、愛されるアカデミックパークとしての大学づくりを推進します。

61. 革新的な建物等整備手法による開かれたキャンパス整備

従来手法にとらわれず、財政基盤強化に資する収益性の高い新たな施設整備手法を戦略的に導入し、複数の既存宿舍の集約、民間マンションやオフィスビル等を収容した複合施設の整備、川内地区のコンベンションセンター化、星陵キャンパスおよび青葉山新キャンパスにおけるリサーチコンプレックス整備などを新たに推進します。

重点戦略 ⑱

世界のライフイノベーションや未来型医療を先導する病院機能の強化

主要施策

62. ライフサイエンス分野における戦略的産学共創の展開とIoT・AI・ビッグデータを活用した新規医療イノベーションの創出

医工薬学の全学横断的な連携を深化させるとともに、技術バリューチェーンを形成する多様な企業が参画するオープンイノベーションプラットフォームを構築することによって、ライフサイエンス分野における本格的な産学共創を展開します。また、IoT・AI・ビッグデータを駆使したコネクテッドヘルスケア事業や、臨床バイオバンクを基盤とした世界水準のゲノム医療の推進を通して、革新的な医療イノベーションを創出します。

63. 未来型医療を牽引するグローバル・ハブとしての病院機能強化

海外の研究機関・医療機関等との戦略的人材交流はもとより、海外の医療機器メーカー、製薬企業、ヘルステック企業等からの多様な人材の受け入れを推進し、国際水準の臨床研究や国際共同治験などの中心的役割を担うとともに、世界的視野をもって未来型医療を担う医療人材および医療イノベーション人材が交流・循環するグローバル・ハブとしての病院機能を強化します。

64. 強固で安定した経営基盤の確立と安全で高度な最先端医療の提供

病院経営の指標である入院単価の向上および平均在院日数の短縮、手術件数増による増収により強固で安定した経営基盤を確立し、先端診療設備の更新・導入を推進することで、安全で高度な最先端医療を提供します。また、地域医療構想に対応した必要病床数・病床機能の適正化および地域医療機関

との連携を通して、より効率的な経営体制を構築します。さらに、全臓器移植認定施設や医療法上の臨床研究中核病院、がんゲノム医療中核拠点病院など、数多くの国の指定を礎に、我が国の医療をリードする一翼を担います。

65. 患者にとって安心・安全で利便性の高い病院環境の整備

効率的かつ効果的な施設整備・維持保全のマスタープランを策定し、安全な施設マネジメントを実行するとともに、行政機関等との連携のもとで地域に開かれた利便性の高い大学病院を目指します。また、院内ボランティアの拡充により、環境美化、患者サービスの充実を実現します。さらに、AI 通訳機器の活用や各種文書の英訳版作成等により、外国人患者の受入れ体制を強化します。

66. 医療の高度化や働き方改革など様々な社会の要請に応える病院運営と人材戦略の展開

早期から専門経験を重視し、リサーチマインドを涵養する高度医療人材養成のための一貫教育や、連携病院とのネットワークの強化等により、初期研修医の増加や専攻医教育の充実を図ります。また、診療や臨床研究、医療人教育等への貢献度を指標とした適切な業績評価に基づき、医師やメディカルスタッフ等へのメリハリのあるインセンティブを付与する等、大学病院における給与マネジメント改革を推進します。さらに、ダイバーシティの推進やマンパワーの適正配置、効果的なタスクシフティング等により、医療人材の働き方改革を実現します。